

主 題：主があなたに求めておられること ④

聖書箇所：Iテサロニケ人への手紙5章21-22節

きょうはIテサロニケ5：21-22をご一緒に学んでまいります。このテサロニケの学びを始めて、ここにおられる信仰者の皆さんが少なくとも次のことに気づいてくださることを心から期待しています。それは、あなたはいつも喜び、すべてのことについて感謝できる信仰者としてこの地上を生きることができるということです。パウロは私たちにそのことを教えてくれているのです。ですからそのメッセージを聞いて、そうか、こういう信仰者として私はこの地上を生きて行くことができるのだという希望を皆さんが持ってくださることを心から願うわけです。

もちろんその約束を神様が下さいました。そして私たちがそのような歩みを継続するためには、100%神の助けが必要だということを見て来ました。だから絶えず祈り続けて行くわけです。神様は私たちがこういう人に変えて行ってくださるのですが、我々にも当然責任があります。あなた自身がやらなければいけないことがあります。それはあなた自身が神の前に善、すなわち正しいことを行ない続けて行くことを常に心で決めることです。私はこんなふう生きて行きたい、私は神の前に正しいことを行ない続けて行きたいということを中心に決めて、そのことを可能にしてくださる神様に助けを求め続けて行くことが必要だと、パウロは教えてくれました。そして、そのような歩みをあなたが日々継続して行くなれば、結果としてあなたはいつも喜び、すべてのことについて感謝する者へと変えられて行くということです。聖書はこういうすばらしい約束、希望を私たちに与え、あなたはこんな信仰者へと変えられて行きます。これは神の約束です。

そのために私たちに何が必要なのか、私たちはどうすればいいのか、そのことを今まで見て来ました。既に私たちは16節からその学びを始めて来ました。前回私たちは「御霊を消してはなりません。」というパウロの命令を聞きました。なぜなら聖霊はあなたをイエス様に似た者へと変えようとしている。その働きを邪魔してはいけないと。また「預言をないがしろにしてはいけない。」という命令を聞きました。あなたを変えてくださる神様のおことばをないがしろにしてはいけないと。大切な神様からのメッセージによって、この神様のおことばによってあなたの生き方が変わって行くということを私たちは見て来たわけです。

きょうは最後6番目、7番目の命令を見て行きます。

6. 「堅く守りなさい」21節

① 「堅く守りなさい」：Iコリント11：2

21節、6番目の命令です。「すべてのことを見分けて、ほんとうに良いものを堅く守りなさい。」とあります。「堅く守りなさい。」という命令がここに出て来ます。この命令もこれまでの命令と同じようにすべて現在形です。継続して、このように歩み続けて行きなさいということをパウロは命じるわけです。失わないようにしっかりと保ち続けて行きなさい。しっかりとそれを握りしめて行きなさいというメッセージです。それが私たちにとっては大切だと。パウロは、実際にあのコリントの教会もそのように歩んでいたということを知って彼らを褒めています。Iコリント11：2に「私があなたがたに伝えたものを、伝えられたとおりに堅く守っているの、私はあなたがたをほめたいと思います。」と書いています。あのコリントの教会でもパウロから教えられたことをちゃんとしっかりと守って行っていた。ですからできない話ではないのです。できる話をパウロはここでしてくれています。なぜ神様の真理を堅く守り続けて行くことが大切かという、いろいろな間違った教えが入り込んで来るからです。それを私たちは悲しいですが経験しています。

パウロは同じようにIIコリント11：13で、にせ使徒たちの登場を警告して、「こういう者たちは、にせ使徒であり、人を欺く働き人であって、キリストの使徒に変装しているのです。」と書いています。パウロは神様のメッセージを伝えるようでないながら、実は神のメッセージを伝えていない人々、人々を惑わすような教師たち、そういう人々が出て来ると警告しました。ヨハネはIIヨハネ5：5-7で同じような警告を与えています。ヨハネは5節、6節のところで互いに愛し合いなさい、愛のうちを歩み続けなさいということをお教えた後、7節で「なぜお願いするかと言えば、人を惑わす者、すなわち、イエス・キリストが人として来られたことを告白しない者が大ぜい世に出て行ったからです。こういう者は惑わす者であり、反キリストです。」と言います。そういうことが2000年前からもう警告されています。神の真理を曲げる人々、神の教えでないことをあたかも神の教えであるかのように教えるにせ教師たちが、間違った教えを教会の中に持ち込んで来ると。だからパウロは、本当によいものを堅く守って行きなさい、神様の真理をし

っかり守り続けて行きなさいと言うのです。

② 何を堅く守るのか？

彼は「ほんとうに良いもの」と言いました。ここで使われているこのことばは、試されて、またテストされた上で価値があるものです。真実と評価、判断されたものの話です。彼が言いたいことは、著名な人だから、こういう人だからとただ信じるのではないということです。それが真理であるかどうか、本当に神様のおことばが教えていることなのかどうか、しっかりと吟味しなさいということです。なぜかという、ヨハネ17：17でイエス様ご自身が「あなたのみことばは真理です。」と言われました。神様のおことばが真理なのです。これが私たちが神から与えられた真理なのです。これが神のメッセージであり、これが神のみこころです。だから私たちはさまざまなことを聞く時に、特にこの時代にあって、多くの預言者たちが神からのメッセージとして語ったことが本当に神からのメッセージなのかどうか、そのことを見きわめなさいと言うわけです。

③ 「見分けて」

21節の初めのところに「すべてのことを見分けて」と、預言者たちが語るすべてのメッセージ、あなたたちが耳にするすべてのメッセージ、それが本当に真実なのかどうか、それをしっかりと見分けなさいとあります。そのメッセージは本当に神からのものであり、正しいメッセージかそうでないかを判断する洞察力というものを身につけなさいと命じるのです。パウロはピリピの教会に対して、ピリピ1：10で「あなたがたが、真にすぐれたものを見分けることができるようになりますように。」と祈っています。彼らが洞察力というものを身につけることをパウロは願って祈っています。そのような人になって行くことが可能だから、パウロはピリピの人々に対してそのような祈りをしたのです。ということは、いろいろな教えがあふれているこの世の中で、あなたご自身も神様の前に正しい真理とは何かを見分ける洞察力を身につけることができるのです。

◎ 洞察力を身につける方法

今からどうやったら身につけることができるのか、お話しします。

* 聖書によって

まず一つ目は聖書によってその判断をするということです。いろいろなメッセージが語られていても、それが本当に聖書の真理にしっかり沿ったものかどうかの判断をしなければいけません。実はベレヤのクリスチャンたちがそうであったことが使徒の働きの中に記されています。パウロたちがテサロニケを訪問した後、迫害を受けて彼らはそこから西の方のベレヤという町に移動して来ました。いつもと同じように、パウロとシラスはまずユダヤ人の会堂に入っていきます。そしてそこで神様のおことばを語るわけですが、使徒17：11に「このユダヤ人は、テサロニケにいる者たちよりも良い人たちで、非常に熱心にみことばを聞き、はたしてそのとおりかどうかと毎日聖書を調べた。」とあります。今パウロが語ったら、我々は言うこと全部を信じるわけですが、このベレヤの人々は、パウロたちを通して語られるメッセージが本当に神様のおことばかどうかということに聖書をもって吟味したとあります。今の私たちにも非常に大切なレッスンです。

というのは、私たち人間の語りたいことを聖書のみことばを引用して語るようなメッセージが存在することは皆さんご存じです。ですから、引用されている聖書のみことばは、自分に都合のよい解釈をするわけで、その文脈から見た時に全然違う意味を持っているにもかかわらず、そのことばを引用して自分の言いたいことを伝える。悲しいですが、そういうメッセージが出てきているわけです。そうすると、私たちはそのメッセージが本当に聖書の言っていることなのかどうかを吟味する必要があると言うのです。そういった目を養うことが必要です。私たちもいろいろな雑誌や新聞、ラジオやテレビなどマスコミの中にクリスチャン関係のものがあります。みんな信じるわけではない、みんなが正しいわけではない。私たちはどういうことが教えられていて、その教えられていることが本当に聖書が言っているとおりになのかしっかりと見きわめなければいけない。ここでパウロはそういうことを言っているのです。私たちはみことばを自分のうちにしっかりと蓄えることによって、そういう判断をすることができる人になります。

* 聖書が記していない事柄について

聖書がこれは間違っている、これは正しいと言ってくれていることに関してはそういう判断ができますが、実はそうでないものもあります。よくわからないもの、どうなんだろうと聖書を調べてもなかなかその答えが出て来ないものも実際あるわけで、ではどうしたらいいのか二つのこととお話しします。

(1) 主に喜ばれることかどうかを見分ける

一つ目は主に喜ばれることかどうかをいつも見分けるということです。ちょうどパウロがエペソ5章の中でこういう話をしています。あなたたち救われた者たちは光の子どもになりました。かつて罪の中を生きていた闇の状態からあなたは解放されて、光——つまり神の祝福の中にあなたは招かれた。あな

たは光の子どもになりました。だから「光の子どもらしく歩みなさい。」とあります。その話をしたパウロがエペソ5：10で「そのためには、主に喜ばれることが何であるかを見分けなさい。」と言うのです。私たちのやることすべてにおいて主が喜ばれることかを考える。そういう基準でもって私たちはすべてをはかって行くわけです。パウロは自分の働きに関してもそういう目を持っていました。パウロ自身の働きに関して、Iテサロニケ2：4で「私たちは神に認められて福音をゆだねられた者ですから、それにふさわしく、人を喜ばせようとしてではなく、私たちの心をお調べになる神を喜ばせようとして語るのです。」と言います。パウロは人々に、何かを選択する時、何かを判断する時に、本当にそれが神に喜ばれることなのかどうかをもって判断しなさいと教えました。彼自身、いつも神に喜ばれることを望み、そのように生きたいと願っていたゆえに、神様から与えられた自分自身の奉仕の働きにおいてでさえ、彼は自分の動機が正しいかどうかを吟味するのです。どんな動機を持って働きをしているか。人に喜ばれるためにしているのか、それとも神に喜んでいただくためにしているのか。彼は神に喜んでいただくために私はやっていると。彼自身の告白を見た時に、確かに彼は神がお喜びになることをいつも考え、それをいつも選択していた。それが彼にとっての一つの物差しであったのです。この「ほんとうに良いもの」の上に立ちなさい、神様のおことばに、神の真理に立ちなさいと言う時に、我々が使うべきもう一つの物差しは、ここに出て来たように、神の前に正しいこと、神がお喜びになることは何だろうということであると。

(2) 主のみこころかどうかを見分ける

主に喜ばれることかどうかをもって判断するだけではなく、もう一つあります。主のみこころかどうかをもって判断しなさいと言うのです。このことが神のみこころかどうか、そのことをもって判断しなさいと言うのです。なぜこう言うかという、クリスチャンというのは神のみこころに沿って生きる者だからです。主イエス様をお信じになってこの救いに与ったあなたは、神のみこころに沿って生きる者へと生まれ変わっているからです。それがクリスチャンだからです。

Iペテロ4：2でペテロは「こうしてあなたがたは、地上の残された時を、もはや人間の欲望のためではなく、神のみこころのために過ごすようになるのです。」と言っています。救われたあなたたちはどういうふうにして生きて行くのか、それを教えています。この地上の日々の生活をどんなふうにするか、自分自身の欲望のために生きるのではなく、神のみこころのために過ごすのだと言っています。そういうことができる人にあなたは生まれ変わっていると言うのです。クリスチャンというのは主のみこころに喜んで従って行こうとする人です。ですから私たちはみこころを求め、もっと言えばみこころを知ることができる者なのです。私たちはみこころに沿って生きて行こうとするのですけれども、同時に我々は神のみこころを知ることができるのです。私は昔信仰を持ってしばらくの間、そのことがよくわかりませんでした。みこころは誰かが伝えてくれるものだと思っていました。でも信仰者に与えられたすばらしい祝福というのは、生きた神様との個人的な交わりです。その方が私たちに教えてくださる。そういうすばらしい特権に私たちは与ったのです。

そのことについてパウロはローマ12章で教えてくれています。既に私たちはローマ書を学んで来たので詳しい説明はしませんけれども、もう一度ローマ12：2を思い出してください。神は、私たちは神のみこころを知ることができることを教えてくれるのです。「この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえ知るために、心の一新によって自分を変えなさい。」とあります。この聖書の箇所を原語から直接訳すと、「あなた方はこの世に従ってはなりません。逆にあなたの心の一新によって自分を変えていただきなさい。その結果、何が神のみこころであるか、すなわちそれは良いことであり、また神に喜ばれ完全なるのかをわきまえ知ることができます。」と記してあります。パウロは、あなたは主のみこころが何かを知ることができますと言っています。神ご自身がみこころは良いことである、つまりそれは正しいことだと言っているのです。だから主のみこころを知る必要があるのです。神に受け入れられることだ、神様がお喜びになることだと言うのです。だから知ることが必要だと。

そして「完全である」と言っています。それが完璧なものなのです。神が望んでおられるすべてなのです。だから神のみこころを知ることが必要であり、そして神のみこころをあなたは知ることができると教えるわけです。

◎ 神のみこころを知る方法

ではどうやったらその神のみこころを知ることができるのか。ローマ12：2でパウロがそのことについて教えてくれています。残念ながら新解約聖書では非常に難しいのですけれども、先ほど私訳を読んだ時に、あえて強調したのですが、「あなた方はこの世に従ってはなりません。逆にあなたの心の一新によって自分を変えていただきなさい。その結果」、つまりあなたが次のように生きるならばその結果としてみこころを見出すことができるのだと教えているのです。それがこの2節のみことばが教えることなのです。この2節の中で二つの生き方をパウロは教えています。一つは、主がお喜びにならない生き

方、もう一つは主がお喜びになる生き方です。そしてあなたが主に喜ばれる生き方をするならば、結果としてあなたは主のみこころを知って、そのように生きて行くことができるかと教えています。

(1) 主がお喜びにならない生き方：「この世と調子を合わせる生き方」

主がお喜びにならない生き方とはどういう生き方か。ここにあったように「この世と調子を合わせる」生き方です。この世と調子を合わせて生きることは神がお喜びにならないと言うのです。「この世」というのは「コスモス」ではない。天と地の、「地上」であるとか、「人々」というのを指す時に使う「コスモス」というギリシャ語をここは使っていません。ここで使われているギリシャ語は、「時代」であったり、「流行」とか「はやり」を表すことばが使われています。ですから、この世のはやりであったり、この世の流行であったり、そういうものと調子を合せてはいけないと言うのです。調子を合わせるというのは、その模範と同じようにするとか、それに順応するとか、それに同化して行くようなこと。そういうことがあってはならないと言うのです。この世の中は私たちに神がお喜びにならない生き方はすばらしい生き方だと一生懸命吹聴します。ファッションであったり、髪型であったり、生き方であったり。段々正直言ってみて見苦しくなって来ませんか？こんなファッションのどこが？というような。でも世の中はそういう生き方がすばらしいと言うのです。それが流行の最先端だと。これがナウイ生き方だと。こういう生き方がすばらしい、格好いいのだと。みことばが言うのは、そういう世の中に同化して行くことは神がお喜びにならない生き方だと。そういうふうにいる人たちが神のみこころを見出すことはあり得ないのです。そういう人たちがその罪を悔い改めて、正しい神がみこころをちゃんと教えてくださる生き方を選択することです。

(2) 主がお喜びになる生き方

どういう生き方か——。一つはこの世に従わない生き方であり、またここに書いてあるように「心の一変によって自分を変え」る生き方です。つまりパウロが何を教えたか——。かつて神に逆らっていた時のあなたは、自分の好きなように生きていました。しかしあなたは新しく生まれ変わったのです。それがローマ書1-11章の終わりまでに書いていたことです。その救いに与ったあなたはそれにふさわしい歩みをするようにとパウロが命じています。新しく生まれ変わったあなたは、それにふさわしい行ないを、それにふさわしい生き方をしていきなさい、そういう人として変えられ続けて行きなさいということパウロは命じているのです。この命令も現在形です。しかもこの命令は受け身、受動態を使っています。つまりあなたが日々変えられて行くのは神のみわざなのです。その神様にあなた自身がより頼んで日々変えて行っていただきなさいと。そういう生き方をあなたがするならば、主はあなたにみこころをちゃんと示してくれると。なぜかおわかりでしょう？その生き方自体が神のみこころだからです。

☆結論：「すべてのことを見分けて、ほんとうに良いものを堅く守りなさい。」二つの秘訣

・ 聖書にしっかりと立ち続けること

きょうのテキストに戻ると、パウロは「すべてのことを見分けて、ほんとうに良いものを堅く守りなさい。」と言いました。そのためには、我々は今見て来たようにしっかりと聖書に立つことです。聖書という基軸がなければ意味がないです。聖書が何を言っているかによって私たちは判断するのです。

・ 正しく歩み続けること

そして同時に日々主の前を正しく歩み続けて行くことです。主が喜ばれることは何かを考えて選択することだし、主のみこころは何かを神様から教えていただきながら、主の前を正しく歩み続けて行くことです。

さてここまで話して、皆さん何かお気づきになりませんか？この21節のみことばでパウロが私たちに教えてくれたことは、正しく生きて行きなさいということでした。それはこの中でずっとパウロが教えていることではないですか？15節では「だれも悪をもって悪に報いないように気をつけ、お互いの間で、またすべての人に対して、いつも善を行なうよう務めなさい。」と言いました。確かにこれは人との関係においてです。教会内、教会外のすべての人々に対して、人の悪に対して悪で報いるのではなくて、善をもって神の前に正しいことを行ない続けて行きなさいと言いました。そのメッセージがずっと脈々と最後の最後まで流れている。そのことにお気づきになりませんか？あなたが主の前に正しく歩んで行かれるならば、あなたは決して御霊の働きを妨げようとはしないはずだと。だって聖霊なる神様の働きはあなたが神の前に正しい歩みをなして行くために助けを与え続けてくれるものだからです。あなたは絶対聖書をないがしろにしてはならない。なぜなら聖書はあなたを成長させて行ってくれるから。逆に聖書を愛し、聖書に喜んで従って行こうとする。そういう人は何が神の前に正しいのかが判断できるのです。だって神のみこころに従って生きているからです。

7. 「避けなさい」 22節

そして最後の22節「悪はどんな悪でも避けなさい。」と。これも現在形の命令です。このメッセージ、この動詞は完全に離れなさいと言っています。離れ続けていなさいということです。「どんな悪でも」、これ

は「すべての」というのは「あらゆる種類」とか「形態」に悪が結びついたことばです。ですからある辞書は「あらゆる種類の悪から」とこの箇所を訳すわけですが、一つや二つではない、いろいろな種類がそこにはあるという話をするわけです。

① 間違っただけから離れること

もちろん私たちは「悪」と言った時に、神の前に間違っている、道徳的墮落というふうに言うわけですが、実はここには偽善であったり、真理の歪曲であったり、この「悪」というのはいろいろな形で現れて来ます。それを私たちは見て行くのですけれども、このどんな悪からでも離れて行きなさいと言うパウロ。誤った、間違っただけから離れ続けて行くことが必要だということは明らかです。詳しい説明をする必要はないでしょう。最初に見て来たように、そういった教えが入り込むから、そういう教えから離れていなさいと。ちょうど使徒20章の中で、パウロがエペソの長老たちを招いて、長老たちにメッセージを与えています。そこにこういうことが記されています。「:19 私が出発したあと、狂暴な狼があなたがたの中には入り込んで来て、群れを荒らし回ることを、私は知っています。:30 あなたがた自身の中からも、いろいろな曲がったことを語って、弟子たちを自分のほうに引き込もうとする者たちが起こるでしょう。:31 ですから、目をさましていなさい。」(使徒20:29-31a)と、これがエペソの教会の長老たちに対してパウロが与えたメッセージでした。私はこれからエルサレムに行くけれども、確実に言えることはいろいろな惑わす教えが入り込んで来るらか目を覚ましていなさい、そういうものに惑わされてはいけぬ、そういう悪から離れるようにと。

テトス1:14では「ユダヤ人の空想話や、真理から離れた人々の戒めには心を寄せないようにさせなさい。」とあります。真理を捨てた人の命令に心を寄せてはならないと言っているのです。みことばは明らかに私たちにそういう誤った教え、偽りの教えから自分たちを守らなければいけぬという話をしています。悪はどんな悪からでも私たちは離れなければいけぬ。

② 間違っただけから離れること

そして同時に間違っただけから我々は離れなければいけぬ。パウロは1テモテ6:10で、金銭を愛する生き方から離れなさいと教えています。「金銭を愛することが、あらゆる悪の根だからです。」と教えられています。よく皆さんもご存じのようにマルコ7章の中に13個の悪が列記されています。「内側から、すなわち、人の心から出て来るもの」が人を汚すのであると主イエス様が言われました。

「悪い考え」、内側から出て来る邪悪な卑しい考えから離れなさいと言っています。「不品行」とあります。性的不道徳です。そういう性的な汚れから離れて行きなさいと。ここで使われている不品行ということばはポルノということばの原語です。そういう汚れから離れなさいと。三つ目に「盗み」というのが出て来ます。四つ目は「殺人」です。実際に物を取らなくても、実際に人を殺めなくても、心の中の盗み、心の中の殺人を神は禁じていることは皆さんよくご存じです。五番目に「姦淫」と出て来ます。不倫の話です。六番目に「貪欲」、好ましくないことへの強い願望です。他人の物などを強く欲しがるといふ、こういった悪から離れていなさいと。七番目に「よこしま」が出て来ます。悪意だとか不正です。人が行なうべき正しい道から離れている状態、そういう生き方に距離を置きなさいと。不正、そういうものから離れて行くようにと。八番目に「欺き」とあります。だますことであつたり、悪だくみです。また九番目に「好色」とあります。肉欲にふけることとかみだらなこと、性的に乱れていること、ふしだらなことです。そういう悪から離れなさいと。10番目は「ねたみ」です。他人の所有物とか能力などに対するうらやましさ、嫉妬です。この「ねたみ」と日本語に訳されていることばは、非常におもしろいのは名詞に形容詞がくっついていて、目という名詞と悪意のあるとかよこしまなという形容詞がくっついていて、それを日本語では「ねたみ」と訳しました。直訳すれば、このギリシャ語は悪い目ということばです。私たちが悪い思いを持って何かを見ることによって起こる話です。自分の持っているものを誰かが持っているとなんでしまう。11番目は「そしり」です。神とか神聖なものへの冒瀆であつたり、不敬な、うやまいのない言動であつたり。12番目は「高ぶり」、傲慢さ、横柄さ。そして13番目に「愚かさ」とあります。分別の悪いことばです。

こういった悪が「内側から出て、人を汚す」から、こういうものから離れなさいということばです。確かに私たちが内側から出て来るいろいろな悪を経験しています。同時に私たちの日々の生活においてみことばが教えている真理に対して妥協してしまうという罪もあります。確かに神様はそう言われているけれども、みことばが私たちに言っているのは、「悪はどんな悪でも避けなさい。」ということばです。これぐらいのうそだつたらいいではないですかではないのです。

このことを命じたパウロは逆説的に見れば、いつでも主の前に善を行ない続けて行きなさいと言っているのです。何度もそこに戻って行きますけれども、1テサロニケ5:15でパウロはいつも善を行ない続けて行きなさいと教えた。信仰者の皆さん、あなたに必要なことはどんな時でも神の前に神がお喜びになる正しいことを継続して行きなさいと。そして正しいことを継続するということは、罪の告白も含

まれます。この中で、罪を犯さない人はだれひとりいません。我々は日々の生活において罪の誘惑を受け、罪に敗北するのが悲しい現実です。神が何を望んでおられるか、あなたがその罪を神の前に告白して、その罪を神に赦していただいて正しく歩み続けて行くことです。だから主の前に正しいことを継続して行くということは、我々の罪を日々神の前に告白するというのも当然含まれているのです。私のような者を神様はお変えにならない、変えてくださると教えているけれども、私はこんなに罪を犯しているから絶対無理だと。私はこんなに多くの罪を繰り返し犯しているから、私のような存在を神様はきっとお用いにならない。いいえ神様はそれを赦してくださる。あなたのすべては全部赦され、神はあなたを義なるものとして宣言して下さった、赦されたのです。しかし、あなたがこの主のすばらしい祝福をいただきながら生きて行くために邪魔しているこの罪をいつも神の前に告白し続けて行きなさいと。その生き方を神様は喜んでくださるのです。自分は弱いと言ってあきらめたり、自分は罪深いやつだからだめだと思っていませんか？神様は赦してくださる。

この教えの中でパウロは私たちに何を言っているかという、主の恵みによって救われたあなたがしなければいけないことは、神の前に神がお喜びになる正しいことを継続していくことだと、そのことを決心することです。主よ、私はそのように生きて行きたい。それがみこころだから、それがあなたの命令だから。しかし、その実践のためには、我々は常に主の前に助けを求めなければいけない。神様、私はこうして生きて行きたいけれども、あなたの助けが要るから、どうぞ助け続けてくださいと。そして、あなたを日々キリストに似たものに変えようとしている聖霊なる神様の働きを邪魔しないことです。罪から離れるのです。そして神様のおことばをしっかりと蓄え、神のおことばを愛して、それに従って行こうとするのです。そうすると、何があなたに約束されているかという、あなたはいつも喜ぶ人として歩み続けることができるのです。あなたはすべてのことについて感謝し続ける者として生きることができるのです。それが神の約束です。

こうしてみことばは私たちにこういう祝福を持ってあなたは生きることができると教えてくれました。あなたがいつも喜びながら生きるならば、その喜びを下さっている神様のすばらしさが証されます。あなたがすべてのことについて感謝しているならば、その感謝をもたらしている神が明らかになります。我々が心から神様を喜んでいる時、神様に心から賛美している時は、確実にそこに神への感謝があります。この二つを切り離すことはできません。神様に捧げている時、「神様、ありがとう」と言っているのではないですか。なぜかという、神があなたの心に喜びを下さっていることを知っているからです。神が喜んでおられる、その喜びがあなたに与えられる。そしてあなたがともに喜ぶ者になり、そしてその喜びを下さった神様をたたえ、感謝するのです。こういう生き方を神はあなたに命じているのです。なぜならそれができるからです。

どうしたらいいのかも教えて下さった。そのように生きることを決心して、主に助けをいただきながら、求めながら歩んで行きなさいと。あなたがいつも喜ぶ者、すべてのことについて感謝を捧げる者へと変えられて行くには、主の助けをいただきながら、主の前に善を行ない続けて行くことです。そのようにパウロは教えてくれている。こうして生きることによって、私たちは私たちにこのすばらしい救いを下さったその神を世に明らかにして行くことができるのです。いつも喜ぶ人、すべてのことについて感謝できる、そんな信仰者になって行きましょう。神がしてくさるのですから。それぞれの責任をしっかりと覚えて、主に憐れみを求めながら、この日を生きることです。主はあなたを、私を変えて行ってくださる。主はあなたを、私を用いて行ってくださる。クリスチャンはそうやって生きるのです。《考えましょう》

1. 良いものを見分ける洞察力をつけるにはどうすれば良いのでしょうか？
2. また、何故その洞察力が必要なのでしょうか？
3. 「真理を堅く守る」ことがどうして大切なのでしょうか？
4. 避けるべき「悪」には種類があります。それらを見分けるためにはどうすれば良いのでしょうか？